

令和4年度 NO. 2

# コミュニティ・スクールだより

学校・家庭・地域の連携と保幼小中一貫教育

R4.9.14

(事務局：国見町教育委員会学校教育課 ☎585-2892)



第2回CS委員会は、  
7月7日（木）、国見小学校を会場に開催しました。

国見小学校の授業の児童の様子を見るとともに、熟議では「(仮称)くにみ学園構想」について、委員の皆様による協議がなされました。

## 国見小学校を参観した声から



元気に授業を受けている子ども、真剣に授業を受けている子ども等いろいろな子どもたちの姿を見ることができた。



子どもたちは一人一台持っているタブレットを毎日使いこなし、これから迎えるグローバルな社会に対応していけると思う。



6年生の「微生物を見つける」という授業を参観した。子どもたちの表情や歓声から授業の良さを感じた。

<児童の授業の様子を参観するCS委員>

1年生は幼稚園卒園後4か月で顔つきも体も成長を実感した。

発表者となった子どもの意見をみんなで認め合い、褒め合っていた。



4月から始まったあいさつ運動ではあるが、子どもたちに会う機会がなく挨拶ができなかった。本日はうるさいくらいにあいさつしてもらい、徹底されていることに驚いた。

最近気になっているのは子供たちの姿勢。親としても気を付けて教育していきたい。

# 『(仮称)くにもみ学園構想について』

国見小学校が開校して10年が経過し、今も人口減少が進んでいます。児童生徒数の減少は教職員数も少なくなり、部活動の減少など様々な課題が予想され、子どもたちの充実した学びの場の確保が重要な課題になっています。さらには、地震被害や老朽化による施設の対応、新しい時代の学びに対応した学校施設が求められています。

国見町では、これらの課題解決のため、0歳から15歳までの連続した学びの場として、保育所と幼稚園の両方の良さを併せ持つ「認定こども園」と、小学校と中学校を併せた「小中一貫校（義務教育学校）」を一体的に整備する「(仮称)くにもみ学園構想」を策定していきます。



くにもみ学園について話し合うCS委員

CS委員会において、4つのグループに分かれ、テーマをもとに国見の子どもたちの未来について話し合いを行いました。

## ①どんな子どもに育てたいか。

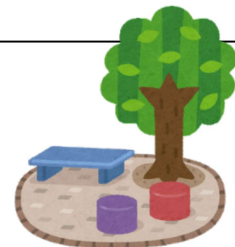
- 自分の意見を持ち、表現できる子ども。
- 自分の未来設計ができる子ども。
- わが町国見を愛する子ども。
- 国際的な視野に立って判断できる子ども。
- 思いやり、相手を気遣える子ども。 など

## ②どんな学びを行うか。

- 義務教育学校での学び。（9年間の成長を、全ての先生で見取ることができる）
- 地域を地域と共に学ぶ。
- 異学齢間、上級生による下級生への教え合い、学び合い、カリキュラムフリー。
- 全てにおいて、体験・経験からの学び。
- 子どもたちの自主的な学び、体験。
- 国見町でしかできないこと＝自然、文化、歴史、国見にいる人。 など

## ③必要な施設や環境は何だろうか。

- 最適な学びの場＝オープンと個の併設。
- オープンで内部が可動式の教室。
- 個々に学べるように、教室以外に学習室や自習室をつくる。
- 快適なトイレ、キレイが続くトイレ。
- 本の広場(図書室)
- 保幼小中の一貫した姿がわかる＝機能的な校舎の配置。
- ランチルームの設置。
- 全天候型アリーナ、空調をしっかりと。
- 木のぬくもり、木造。
- コミュニティ・ルーム＝地域人材が学校に出入りできる場。
- 幼小中の垣根を超えた活動ができるスペースを。
- 農園の併設。
- 送り迎えや避難経路等、安全面に配慮した環境。
- 災害に強い＝安心して学べる＝防災の拠点。 など



など